

デクセリアルズと株主の皆様をつなぐコミュニケーションマガジン

Dexerials Talk vol. 6

第6期 報告書 2017.4.1 - 2018.3.31

Contents

- 01 株主の皆様へ
- 04 社外取締役から見たデクセリアルズ
- 05 デクセリアルズの製品紹介
精密接合用樹脂
- 07 デクセリアルズ・レビュー
- 09 総会可決後の役員の紹介
- 10 TOPICS
- 裏表紙 会社概要・株式の状況・株主メモ・
ホームページのご案内

定時株主総会に関するご報告

2018年6月22日開催の当社「第6期定時株主総会」の決議の結果につきましては、インターネット上の当社のウェブサイト (<http://www.dexerials.jp>) に掲載しておりますのでご覧くださいようお願い申し上げます。

同封の株主アンケートにご協力をお願いいたします。

株主の皆様のお声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご回答〆切 2018年7月末

2018年3月期を終えてのご挨拶

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年3月期(2017年4月1日～2018年3月31日)の事業概要についてご報告申し上げます。

代表取締役社長

一ノ瀬 隆

連結業績の概要

売上高

70,079百万円

(前期比 12.0% 増)

営業利益

6,178百万円

(前期比 77.0% 増)

経常利益

5,682百万円

(前期比 96.4% 増)

親会社株主に帰属する当期純利益

3,426百万円

(前期比 260.9% 増)



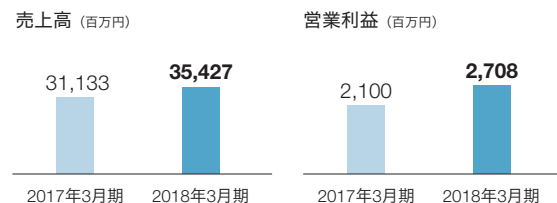
2018年3月期を振り返って

2018年3月期(以下当期)の当社グループの製品が関わる主要業界は、コンシューマーIT製品市場において、スマートフォン市場の成熟化や、タブレットPCの需要縮小が続くなど、厳しい事業環境が継続しました。

このような経営環境のなか、当社グループは中期経営計画の実現に向けて、当期は高付加価値製品の販売促進に取り組む一方、新しい成長ドライバーに挙げた反射防止フィルムについては、栃木事業所に追加増産投資を行うなど、旺盛な需要に対応しました。この結果、連結業績は、売上高70,079百万円(前期比12.0%増)、営業利益6,178百万円(同77.0%増)、経常利益5,682百万円(同96.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益3,426百万円(同260.9%増)と、いずれも期初の予想を大きく上回る成果を上げ、前期の落ち込みからの回復を遂げました。



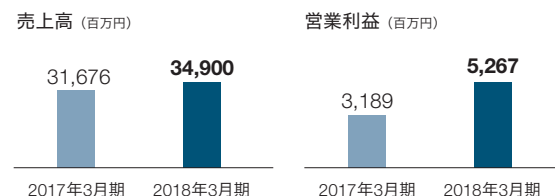
光学材料部品事業



光学材料部品事業は、ノートPC用ディスプレイ向け製品の取引条件変更等を受けて売上を大きく伸ばし、車載用途も順調に拡大した光学フィルムカテゴリーが増収増益となる一方、光学樹脂材料カテゴリーは、スマートフォン向けの光学弾性樹脂の売上減により、減収減益となりました。光学ソリューションカテゴリーは、既存コンシューマーIT機器向けの事業収束が完了し、減収となりましたが、固定費削減により損益が改善しました。



電子材料部品事業



電子材料部品事業では、熱伝導シートなどがスマートフォン向けに新規採用された接合関連材料カテゴリーが売上を拡大し、異方性導電膜カテゴリー、表面実装型ヒューズカテゴリー、マイクロデバイスカテゴリーもそれぞれ増収となりました。

今期業績予想と配当

今期(2019年3月期)の事業環境は、コンシューマーIT製品市場においてスマートフォン市場の成熟化が進むなど、厳しい状況が続いていくものと思われまます。

今期の連結業績は、売上高63,700百万円(当期比9.1%減)、営業利益7,000百万円(同13.3%増)、経常利益6,700百万円(同17.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益4,200百万円(同22.6%増)を見込んでいます。反射防止フィルムの大幅な収益増を見込んでおり、購入基材の変更による影響を除くと、実質増収増益となる見通しです。

詳しくは次ページの「2019年3月期のポイント」をご覧ください。

なお当期の期末配当は、予定通り1株当たり20円とさせていただきます。これにより年間配当額は、同20円の間配当と合わせて同40円となりました。今期の配当については、中間・期末とも当期と同額を予定しています。

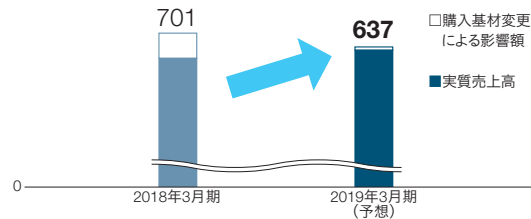
株主の皆様におかれましては、当社グループの事業の発展にご期待いただき、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月期のポイント

● 実質増収増益

2019年3月期の減収予想は、主に円高と反射防止フィルムの購入基材の変更によるものです。具体的には、基材の変更に伴い当社の仕入れ価格および当社製品の販売価格が下がったことによるもので、これによる利益への影響はございません。この影響を除くと増収となり、実質的には2019年3月期は増収増益となります。

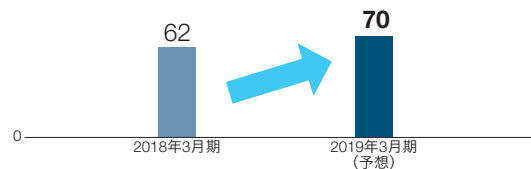
売上高 (億円)



● 円高前提でも増益計画

為替レート	2018年3月期	2019年3月期 (予想)
円/米ドル	110.9円	105.0円
1円/米ドルの変動による営業利益への影響額		
約3億円		

営業利益 (億円)

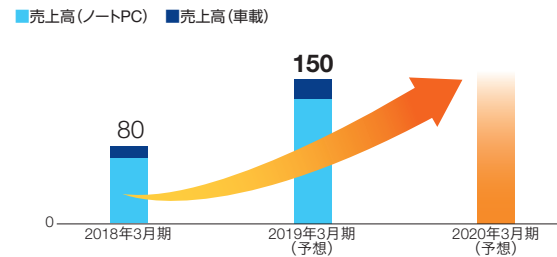


● 2020年3月期以降の持続的成長に向けた3つの施策を展開

取り組み 1 光学フィルム

- ノートPC用ディスプレイや車載向けに大きく増加する製品需要を、新規に導入した生産設備で着実に取り込み、大幅に収益を拡大
- 反射防止フィルムを既存使用先以外のノートPCメーカーや、新たなアプリケーションに拡大
- 当該生産設備を用いた反射防止以外の機能を持つ製品の開発・上市

光学フィルムカテゴリ売上高 (億円)



取り組み 2 自動車

- 新事業領域へのリソース配分を見直し、自動車領域にリソースを集中
- 自動車の電装化や先進運転支援システム (ADAS) 向けにエレクトロニクス領域で培ってきた技術を展開
- ヘッドアップ・ディスプレイ、各種センサー、および熱ソリューション向け材料の開発・マーケティングを優先して進め、当社製品のラインアップを拡げ、事業規模の拡大を目指す



取り組み 3 ライフサイエンス・環境



ライフサイエンス

高視認性フィルム

- 医療用アイシールド (感染防止目的で使用する保護シート)
- 海外展開を通じて拡販を図る



(使用イメージ)

新たな防曇・防汚ソリューションの提供

- 独自の材料配合・塗布技術で高い防曇性と、拭き取りによる傷・剥がれに強い材料を新たに開発し、今期中の上市を目指す



オルソリパース社への出資

- 綿形状人工骨充填材を手がける同社とは技術的親和性が高い
- 同社への開発支援や、業界の知見獲得が可能に



環境

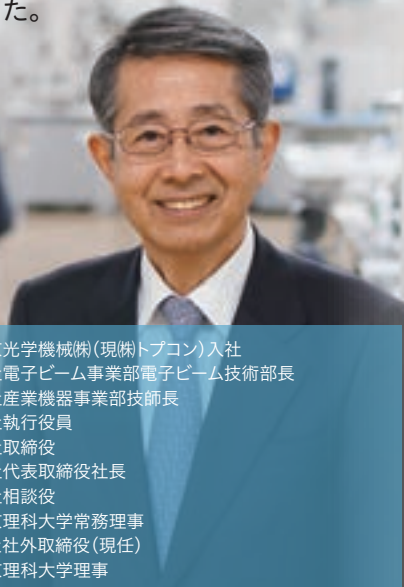
排水処理剤

- 植物由来で凝集、凝結、脱水促進の機能を持つ製品
- 量産体制を構築、海外展開へ



社外取締役から見たデクセリアルズ

上場企業において要職を歴任され、企業経営に関する高い見識をお持ちの横倉社外取締役
に当社の品質管理、生産体制についてご意見を伺いました。



1971年 4月 東京光学機械(株)(現㈱トプコン)入社
1993年 10月 同社電子ビーム事業部電子ビーム技術部長
1997年 4月 同社産業機器事業部技師長
2002年 6月 同社執行役員
2003年 6月 同社取締役
2006年 6月 同社代表取締役社長
2011年 6月 同社相談役
2012年 12月 東京理科大学常務理事
2015年 5月 当社社外取締役(現任)
2015年 10月 東京理科大学理事

品質管理についてどう思われますか？

昨今、製造現場の隠ぺいや規定不履行、特採処置の不徹底など、個人・組織ぐるみと一企業でなく業種を超えて続々と明るみに出ています。そもそも品質管理とは顧客のニーズを満たすことを確実にし、確認し、実証するために企業が行う体系的な活動である品質保証を達成するための手段であると定義されています。しかし、現場任せの品質づくりのみが長く続き、目標とした品質を効果的かつ効率的に達成する活動がいつの間にかその本質を見失い、ねじ曲がった判断が現場で横行していることは大変残念なことです。

当社の品質管理についてどう思われますか？

私は、製造業の経験から技術力・生産力について特に高い関心を持っており、その向上施策への取り組みの実態について現場視察を含め、確認しています。デクセリアルズは、CTQ*マネジメントがしっかりと機能し、向上施策の活動が「見える化」され、着実に進展していると評価しています。そして直接顧客サイドの工程まで踏み込んだ最適生産(高歩留まり、高品質確保)のための支援を行っており、顧客からの高い信頼獲得につながっています。

機能性材料において分析・解析は、事業基盤を支える特に重要な機能です。原子、分子レベルの分析解析から完成品の機能評価まで広範囲の機器が整備されています。またディスプレイ分野においては、使用するユーザーの敏感なニーズに応える必要がありAI検査に加え、目視による官能検査も行われています。事業所の視察で分析解析の技術力、対応体制ともに信頼性の高さを実感しました。

当社の生産体制についてどう思われますか？

デクセリアルズは2016年に栃木事業所へ技術と一部生産を集約しました。まだ株式上場間もない時期ではありましたが、将来の成長を指向したあるべき姿から経営判断しました。

新事業拠点での始動早々のタイミングで開催された技術交流会参加の機会を得ましたが、マーケティング部門を含め関係者が一堂に会し、活発な議論が繰り広げられていて、自由闊達な企業風土を感じました。

生産においても高品質で無駄のない最適生産へ体

制強化が図られるとともに、グローバルベースの生産体制の中で栃木事業所がマザー工場としての役割を担っていくこととなります。そして機能性材料の技術開発と生産を支える上で中核となる分析評価機能が拠点集結し、一体運営することでコミュニケーションが深まり、シナジー効果が生まれています。これは事業活動にとって重要なことと受け止めています。

株主の皆様へメッセージをお願いします。

デクセリアルズの経営の根幹は「Integrity 誠心誠意・真摯であれ」にあると思っています。私は「万機は一誠に帰する」を掲げるところとして、経営を行ってきましたが、同じ考えであり、社員全員が体現してくれることを願っています。最も関心があった企業風土については、栃木事業所視察・技術交流会・生産品質全社運動などを通じ、創業以前から培ってきたことがベースとなり、創業間もない中でも、理念の実践が根づいていることを確認できたことは大変心強く感じました。株主の皆様には、デクセリアルズの品質管理と生産体制について、信頼を置いていただけるものと考えています。

社外取締役 横倉 隆

*CTQ・・・Critical to Quality 経営課題として解決すべき重要なニーズ



デクセリアルズの製品紹介

精密接合用樹脂

ミクロン単位の接着技術で
ものづくりの可能性を拡げています。

小型化が進む電子機器の部品を固定し、
電子機器の進化を支える存在

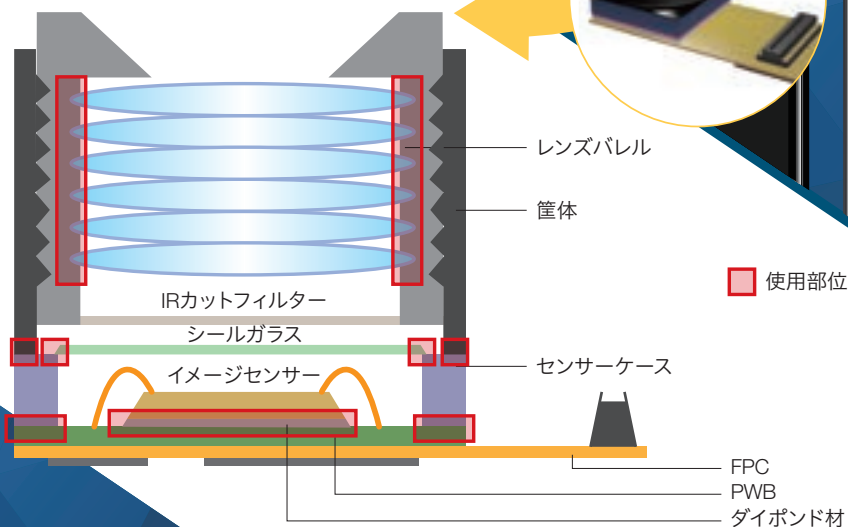
電子機器は近年、急速な高機能化とともに薄型化、小型化も進んでいます。これに伴い、電子部品のサイズや実装スペースは一段と小さくなり、ネジ止めによる固定が困難なため、接着剤が多く活用されています。

デクセリアルズの「精密接合用樹脂」は、電子部品を精密に固定できる液状の接着剤として、CDやDVDなどの光ディスクを読み取る光ピックアップや、ディスプレイに使われるLEDバックライトの部品固定に使われてきました。最近では、スマートフォンのカメラのセンサーケースやレンズおよびレンズ鏡筒などの固定に多く使われ、売上が拡大しています。

電子部品を接着剤で精密に固定するためには、樹脂が固まる時の収縮を抑え部品位置がズレないようにする必要があります。当社は、アクリル樹脂系接着剤としては業界最高水準の低硬化収縮率を誇る接着剤を開発し、極めて精密な接合にも対応しています。

使用例

カメラモジュールの鏡筒とセンサーケース、または鏡筒と基板の固定に使われています。



積み重ねた技術を駆使し、 お客様のものづくりをサポート

当社は、CD用の光ピックアップが生まれた頃から、電子機器メーカーに提供するための接着剤の開発に携わっており、ものづくりの現場で長年さまざまなニーズに応えながら、多くの技術を蓄積してきました。

カメラ付きの携帯電話が登場した2000年以降は、映像を撮影することができる製品が飛躍的に増加しました。現在では、スマートフォンなどカメラ機能を備えた小型機器には、レンズやセンサーなどからなる「カメラモジュール」という部品が搭載されています。

カメラモジュールは、スマートフォン用の場合で縦・横の長さが8~10mm程度、厚みが5mm程度と非常に小さなものです。その中にレンズが4~6枚搭載され、撮影時にしっかりと光を捉えられるようにミクロン単位で位置を調節しています。

このレンズを固定する際に、レンズ自身が高温に弱いため、加熱によって固めるタイプの接着剤を使用できないことがあります。その場合当社では、紫外線を当てることで硬化させる加熱不要の接着剤も取り揃えています。

しかし、紫外線が奥まで当たらない箇所や、紫外線を通さない黒色のカバーの裏側に高温に弱い部品を固定したいといった要望も少なくあり

ません。こうした条件をクリアすべく、紫外線による仮止めで位置を決めた後、低温で熱硬化する併用型の接着剤も用意しています。

このように当社は、これまで蓄積してきた多くの技術を駆使することで、特性や形状ごとに異なる多様なニーズに対応できる接着剤をラインアップし、お客様の理想のものづくりをサポートしています。

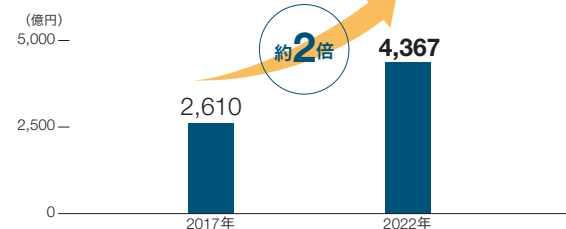
今後「電子の目」の需要拡大とともに 成長が見込まれる精密接合用樹脂

現在、市場で主流となっている高性能のスマートフォンは、よりきれいで鮮やかな写真を撮るために、2つのカメラモジュールを搭載しています。こうした流れから、スマートフォンの製造に用いられる接着剤の使用量は、以前よりも増加しています。

また、今後のカメラモジュールは、IoT機器や自動運転車などの「電子の目」として、写真撮影以外の用途に大きく広がっていきます。特に自動運転車では、画像処理によって道路の白線や他の車を認識するため、センサーカメラが必要不可欠なキーデバイスとなっており、大幅な需要増加が期待できる状況にあります。富士キメラ総研「2018 イメージング&センシング関連市場総調査」によると、車載カメラモジュールの市場規模は、2017年の2,610億円に対し、2022年には約2倍の

4,367億円にまで拡大すると予測されています。

車載カメラモジュール市場規模



こうした背景を踏まえ、現在進行中の中期経営計画「変革と成長 2018」では、カメラモジュール向け精密接合用樹脂の拡大による安定収益の確保を見込んでいます。

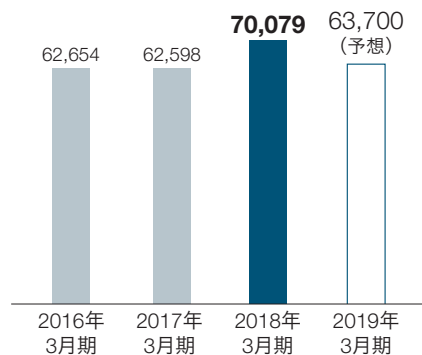
当社は、これからも新しい技術の流れを捉えた優れた製品を創出し、エレクトロニクス、自動車など様々な領域に広く提供していくことで、さらなる事業の成長を目指してまいります。

車載向けセンサーカメラ



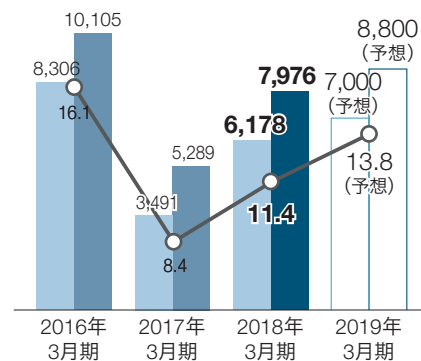
デクセリアルズ・レビュー

売上高 (百万円)

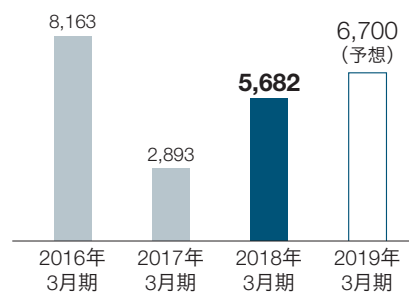


営業利益 (百万円) と営業利益率 (%)

■ 調整前営業利益 ■ 調整後営業利益 ○ 調整後営業利益率

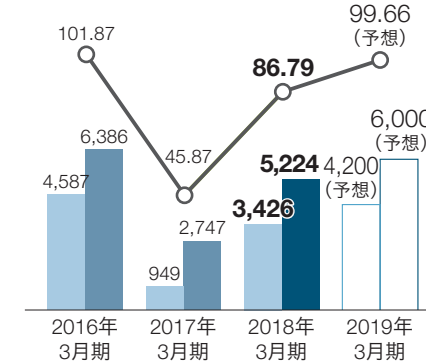


経常利益 (百万円)



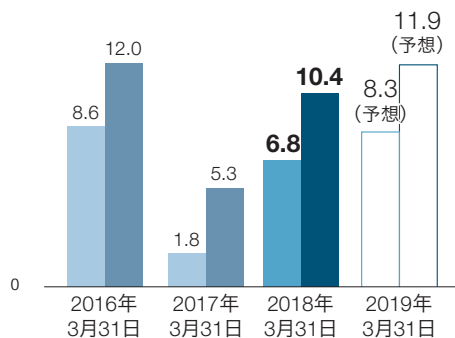
当期純利益* (百万円) と 1株当たり当期純利益 (EPS)* (円)

■ 調整前当期純利益 ■ 調整後当期純利益 ○ 調整後EPS



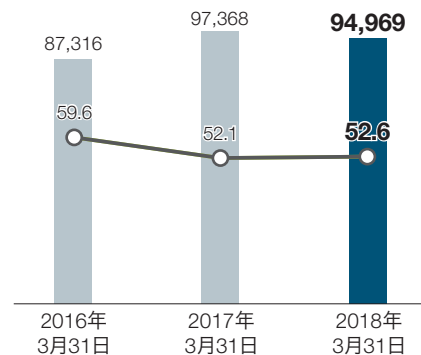
ROE (%) (自己資本利益率)

■ 調整前 ■ 調整後

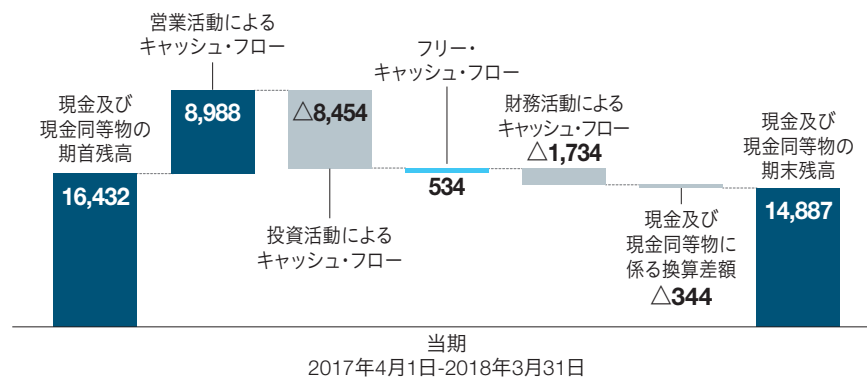


総資産 (百万円) 自己資本比率 (%)

■ 総資産 ○ 自己資本比率



キャッシュ・フロー (百万円)



▶ より詳細なデータについては当社サイト「IR情報」ページをご参照ください。

WEB <http://www.dexerials.jp/ir/>

デクセリアルズ IR 検索



*親会社株主に帰属する当期純利益に読み替え

連結財務・非財務データ		第4期 2016年3月期	第5期 2017年3月期	第6期 2018年3月期	第7期 2019年3月期予想
売上高	(百万円)	62,654	62,598	70,079	63,700
営業利益	(百万円)	8,306	3,491	6,178	7,000
経常利益	(百万円)	8,163	2,893	5,682	6,700
当期純利益*	(百万円)	4,587	949	3,426	4,200
純資産額	(百万円)	52,062	50,682	49,921	—
総資産額	(百万円)	87,316	97,368	94,969	—
自己資本比率	(%)	59.6	52.1	52.6	—
有利子負債	(百万円)	15,500	20,000	21,083	—
1株当たり当期純利益*	(円)	73.16	15.85	56.91	69.76
1株当たり純資産	(円)	868.96	843.56	825.82	—
1株当たり配当金	(円)	60	55	40	40
設備投資	(百万円)	6,905	9,383	7,257	5,700
研究開発費	(百万円)	4,123	3,632	3,702	3,800
減価償却費	(百万円)	2,977	3,334	3,799	4,900
のれん償却費	(百万円)	1,799	1,798	1,798	1,800
従業員数	(名)	2,317	2,124	1,981	—
為替レート(円/米ドル)	(円)	120.1	108.4	110.9	105.0

調整後**利益・指標

営業利益	(百万円)	10,105	5,289	7,976	8,800
当期純利益*	(百万円)	6,386	2,747	5,224	6,000
1株当たり当期純利益*	(円)	101.87	45.87	86.79	99.66
自己資本利益率(ROE)	(%)	12.0	5.3	10.4	11.9

**のれん償却額を営業利益、当期純利益にそれぞれ足し戻して算出

「調整後の利益が 当社の実力値」

当社は、重要な経営指標として調整後(のれん償却前)の数値を用いています。

2012年の独立時に旧親会社に支払った買付金額と当社の簿価(帳簿上の価値)の差額である約360億円を「のれん」として貸借対照表に計上し、20年間でこれを均等償却しています。

この結果、営業利益が每期約18億円減額されていますが、のれん償却はキャッシュ・フローに影響を与えないため、調整後の利益が当社の真の実力値であると言えます。

このため、当社では上場当初から損益計算書の営業利益にのれん償却相当額を足し戻し、「調整後営業利益」として開示しています。

また、「当期純利益*」についても同様にのれん償却相当額を足し戻し、あわせて「調整後ROE」も開示しています。

総会可決後の役員の紹介

透明性の高いガバナンスを目指した取締役会・監査役会を構成しています

企業価値の向上にとって、コーポレート・ガバナンスの確立は極めて重要であるとの認識のもと、当社では取締役会の構成の過半数を独立社外取締役が占めております。グローバルに事業を展開し多種多様なステークホルダーを有するという当社の事業構造からも、経営の透明性・客観性を高める努力をしています。同様に、3名の監査役も、常勤監査役1名と社外監査役の2名のそれぞれが独立役員です。監査役は社内に設置された内部監査部と連携して監査を行い、また四半期毎に監査役と会計監査人、内部監査部の3者が三様監査会議を開催し連携を図っています。

取締役(社内)



取締役(社外)



監査役(社外)



※当社は、社外取締役および社外監査役全員を、東京証券取引所が定める一般株主と利益相反関係が生じるおそれがない独立役員として指定し、同取引所に届け出しています。



「東証IRフェスタ2018」に参加

個人投資家向けIR活動の一環として今年3月16日(金)、17日(土)にパシフィコ横浜で開催された「東証IRフェスタ2018」に参加し、ブース出展および会社説明会を行いました。

同イベントは、2日間合計で約20,000人のご来場者で賑わい、当社ブースには約900人の皆様に足を運んでいただきました。開催2日目に行った会社説明会では、当社の事業内容と成長戦略についてご説明し、多くのご来場者より高い関心が寄せられる場となりました。



オンライン会社説明会の開催

平日昼間に開催される会社説明会には参加できなかったり、遠方にお住まいの個人投資家の皆様に向けて、今年3月20日(火)の20時より「オンライン会社説明会」を開催し、多数のアクセスをいただき好評を博しました。

ストリーミング配信された説明会は、社長の一ノ瀬がスピーカーとなり、サイト上でリアルタイムの質疑応答を行うなど視聴者の皆様に当社への理解を深めていただきました。



▶ <http://www.irwebcasting.com/20180320/1/index.html>



足尾銅山で 新入社員環境研修を実施

昨年11月、栃木県の足尾銅山で「2017年度新入社員環境学習」研修を実施し、新入社員全員が参加しました。

日本最初の公害事件で知られる足尾銅山での学習を通じ、環境保全への意識を高めることが目的です。当社が活動支援するNPO法人の指導を受け、植樹作業も体験しました。



「オートモティブワールド」 に初出展

車載ビジネスへの展開のため今年1月、東京ビッグサイトで開催された「第10回オートモティブワールド」の「カーエレクトロニクス技術展」に出展し、車載



アプリケーション事例としてディスプレイ関連材料などの製品展示を行いました。

約800人の自動車業界関連のお客様が展示をご覧になり、当社製品の特長や性能への理解を深めていただきました。

「TABLE FOR TWO」プログラムを導入

先進国の参加者と開発途上国の子どもたちが時間と空間を越え、食事を分かち合う「TABLE FOR TWO」プログラム。社員がヘルシーメニューの購入時に、開発途上国の学校給食1食分に相当する20円を負担し、1食ごとにこれを寄付するものです。当社では昨年11月以降、栃木事業所、なかだ事業所および鹿沼工場の社員食堂で導入を開始しました。



会社概要 / 株式の状況 (2018年3月31日現在)

会社概要

設立 2012年6月20日
 資本金 15,934百万円
 本社所在地 東京都品川区大崎一丁目11番2号
 従業員数 1,981名(連結)

取締役・監査役

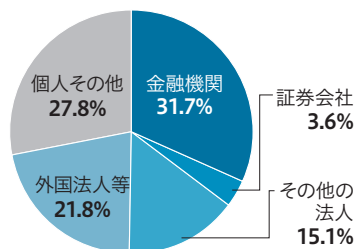
代表取締役社長	一ノ瀬 隆	取締役*	横倉 隆
代表取締役	安藤 尚	取締役*	高松 和子
取締役	永瀬 悟	常勤監査役*	佐竹 俊哉
取締役*	平野 正雄	監査役*	高田 敏文
取締役*	藤田 浩司	監査役*	佐藤 りか

*会社法に定める社外取締役、社外監査役

株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株
 発行済株式の総数 63,668,000株
 株主数 25,461名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,002,200	9.43
積水化学工業株式会社	5,040,000	7.92
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,177,200	6.56
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	3,217,000	5.05
大日本印刷株式会社	3,125,000	4.91
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	1,602,100	2.52
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,237,000	1.94
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	1,088,900	1.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	977,200	1.53
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	966,335	1.52

ホームページのご案内



WEB <http://www.dexerials.jp/ir/>
 デクセリアルズ IR 検索

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月開催
 期末配当金受領株主確定日 3月31日
 中間配当金受領株主確定日 9月30日
 1単元の株式数 100株
 証券コード 4980
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 事務取扱場所 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 連絡先・郵便物送付先 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
 ・TEL 0120-232-711(通話料無料)
 ・ホームページ <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>
 ・郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

手続きに関するご案内 住所・氏名の変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定などの手続きは、口座を開設されている証券会社へご連絡ください。
 相続などによる株式所有者の変更は、株主名簿管理人および口座をお持ちの証券会社にご連絡ください。
 公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 公告掲載URL <http://www.dexerials.jp>

株式に関する手続きのご案内

お取扱窓口 支払明細の発行、未払配当金のお支払い等については、以下の連絡先にお問い合わせください。
 お問い合わせ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711(通話料無料)
 (土日祝祭日等を除く平日9:00~17:00)
 上記電話番号をご利用いただけない場合 042-204-0303(通話料有料)

デクセリアルズ 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー8F
 TEL (03)5435-3941



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油インキを使用しています。